流石に健歩会だと思います。
これに甘えることなく、自分も少しでも役に立たねばと思いますが怠慢ぐせもあり、なかなかままなりません。しかし、他の会でも少しでも役に立つよう心がけています。
高齢化した私たちは、公助の恩恵を受けていますが、できるだけ長く自立を続け共助を心掛けねばと思います。過日の健歩会講習会では、脳活性化に一番効果あり! ボランティア活動のススメを教わりました。ありがとうございました。

会報が100号に達成おめでとうございます

1班 **河股隆子**

記念すべき今年、私は第7期養成講座を終了し先輩方の仲間入りをさせていただきました。
会報が100号までに継続する健歩会の会員になれた事は、私には誇らしく感じています。
しかし、今だわからない事ばかりです。
会報101号、102号と回を重ねていくように、私も成長していけるように頑張っていきたいと思います。
健歩会に心から感謝して、微力ながら貢献できたらと思っています。

2015/06/10. 白川 紅葉谷

§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§2 班§§§§§§§§§§§§§§§§§§

会報100号に思う

2班 **幸田洋史**

Uji 健歩会5周年記念の年、平成19年5月当時の黒澤会長自ら編集、創刊された会報は翌年、発足間もない事務局に引き継がれ、ここに100号の発行を迎えるに至った。
これを機会に、改めて会報の役割を振り返ってみたい。
はじめに、的確な情報を提供すること。例会をはじめ様々な活動予定とその結果や役員会での討議内容を掲載し、会員が少しでも早く会の動きを知ると共に活動計画を立て易くする一助になること。
つぎに、理念にもとづいた主張を適宜発信すること。
会員はもとより内外に、会のあるべき姿をアピールし理解者の輪を広げること。
これは創刊当時の思いを継承することでもあろう。
おわりに、会員の積極的な助言や提言が、紙面の活性化につながることになる。